

増毛山道復元追い込み

浜益御殿―雄冬山頂付近 残るは2.6キロ

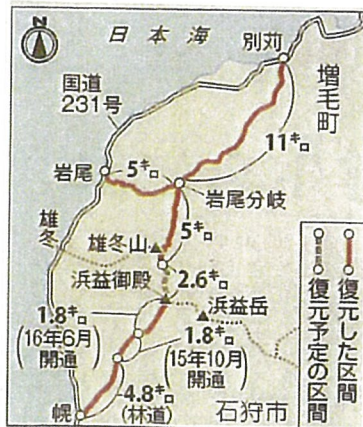


増毛山道の復元を目指してササやぶを刈り、道を切り開く増毛山道の会のメンバーら＝6月22日(石狩市提供)

トレッキング計画も

【石狩】江戸末期に開かれた「増毛山道」(留萌管内増毛町別荘―石狩市浜益区幌、27キロ)の復元作業が追い込みに入っている。浜益区幌―浜益御殿間の8・4キロが6月までに開通し、全区間開通まで残り2・6キロとなった。10月にはすべての作業が終わる予定で、関係者は「往時の姿の復元まであと一歩」と期待に胸を膨らませている。(成田智加)

増毛山道は、北方警備の必要性を感じた江戸幕府から兵員輸送路確保の命を受けた増毛の商人伊達林右衛門が1857年(安政4年)に私費で開削。断崖が続く海岸線に代わる貴重な陸路として活用されていた。しかし、海沿いの国道開通で往来が減り、1941年(昭



和16年)に武好駅通が廃止されると、草木が生い茂り通行不能となっていた。貴重な文化遺産である増毛山道を復活させようと、NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)と留萌振興局が2008年にササ刈りに着手。14年までに増毛町側の16キロが開通した。

石狩市側から11キロのうち、海側の4・8キロは、すでにある林道とルートがほぼ重なるため通行できる。

昨年10月には、林道の終点から1・8キロの復元を終えた。今年6月11、12の両日と同21、24日の計6日間作業し、浜益御殿山頂までの1・8キロを切り開いた。増毛山道の会のメンバーや石狩市の職員ら延べ85人が参加。航空写真や測量データなどを頼りに、高さ4メートルまで伸びたササを草刈り機で刈りながら少しずつ進み、幅2・5メートルの道を作っ

ていった。

作業最終日の24日には浜益御殿山頂で、道内で最も高い標高1038メートルに設置されている一等水準点の標石を見つけた。深さ30センチほどの土の中から掘り起こした同会副会長の渡辺千秋さん(64)は「探し求めていた宝をやっと見つけたかのようにつれしかった」と振り返る。

残るは、増毛町との境界にあたる雄冬山山頂付近までの2・6キロ。10月ごろの作業再開を予定している。

増毛町側では、復元コースを歩くトレッキングの体験会が年に数回開かれており、今夏からは石狩市側でも計画されている。市の担当者は「観光客の呼び込みにもつなげていきたい」と話している。

伊達林右衛門の子孫で同会会長の伊達東さん(82)は「札幌市は1年内開通の見通しが立ち、本当につれしい」と話している。